

# 船橋市高齢者生活実態調査

## 概要版

令和2年3月

船橋市

# I 調査実施概要

## 1. 調査の目的

本調査は、次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の令和3年3月の策定に向け、市内の高齢者などの生活実態や健康状態、介護保険および保健福祉サービスなどに関するニーズを把握し、今後の高齢者の保健福祉や介護サービスの充実のための基礎資料として活用することを目的とする。

## 2. 調査の対象

(1) 調査地域 船橋市全域

(2) 調査対象

本調査は、対象者別に次の4種類のアンケート調査を、無記名式で実施した。

①高齢者基本調査	市内在住の65歳以上の高齢者から、要介護認定者（要介護1～5）を除いた5,000人を抽出	郵送配付・ 郵送回収
②要介護高齢者調査	市内在住の65歳以上の高齢者から、要介護認定（要介護1～5）を受けている4,000人を抽出	郵送配付・ 郵送回収
③ひとり暮らし高齢者・ 高齢者のみ世帯調査	市内在住の65歳以上のひとり暮らし高齢者または高齢者のみ世帯の者から、要介護認定者（要介護1～5）を除いた1,000人を抽出	訪問による聞き 取り調査（一部 郵送回収）
④若年調査	市内在住の40～64歳の市民から、1,000人を抽出	郵送配付・ 郵送回収

※「①高齢者基本調査」「②要介護高齢者調査」の対象者は、24地区コミュニティ別の介護保険第1号被保険者数の人口比で抽出した。

※「③ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯調査」「④若年調査」の対象者は、日常生活圏域（5圏域）別の介護保険第1号被保険者数の人口比で抽出した。

### 3. 配布・回収の状況

各アンケート調査の配布・回収の状況は次のとおりである。

アンケート種類	配布数	有効回収数	有効回収率
①高齢者基本調査	5,000	3,815	76.3%
②要介護高齢者調査	4,000	2,618 (うち入院・入所 182)	65.5%
③ひとり暮らし高齢者・ 高齢者のみ世帯調査	1,000	827	82.7%
④若年調査	1,000	530	53.0%

### 4. 回答者の基本属性

#### ◇ 性別

項目	高齢者基本調査		要介護高齢者調査		ひとり暮らし高齢者・ 高齢者のみ世帯調査		若年調査	
	人	%	人	%	人	%	人	%
男性	1,656	43.4	948	38.9	355	42.9	225	42.5
女性	2,048	53.7	1,404	57.6	453	54.8	302	57.0
無回答	111	2.9	84	3.4	19	2.3	3	0.6
合計	3,815	100.0	2,436	100.0	827	100.0	530	100.0

#### ◇ 年齢

項目	高齢者基本調査		要介護高齢者調査		ひとり暮らし高齢者・ 高齢者のみ世帯調査		若年調査	
	人	%	人	%	人	%	人	%
40～44歳	/	/	/	/	/	/	104	19.6
45～49歳							121	22.8
50～54歳							119	22.5
55～59歳							101	19.1
60～64歳							82	15.5
65～69歳	768	20.1	99	4.1	137	16.6	/	
70～74歳	1,146	30.0	211	8.7	224	27.1		
75～79歳	935	24.5	381	15.6	232	28.1		
80～84歳	605	15.9	617	25.3	146	17.7		
85歳以上	320	8.4	1,079	44.3	79	9.6		
無回答	41	1.1	49	2.0	9	1.1		3
合計	3,815	100.0	2,436	100.0	827	100.0	530	100.0

◇ 要介護等の認定状況

項目	高齢者基本調査		要介護高齢者調査		ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯調査		若年調査	
	人	%	人	%	人	%	人	%
認定は受けていない	3,391	88.9			724	87.5		
総合事業対象者*	13	0.3			4	0.5		
要支援1	108	2.8			25	3.0		
要支援2	121	3.2			22	2.7		
要介護1					794	32.6		
要介護2					784	32.2		
要介護3					399	16.4		
要介護4					178	7.3		
要介護5					126	5.2		
無回答	182	4.8			155	6.4		
合計	3,815	100.0	2,436	100.0	827	100.0		

※総合事業対象者とは、地域包括支援センター等で「基本チェックリスト」により要支援相当と判定を受けた者。

◇ 日常生活圏域（5区分）

項目	高齢者基本調査		要介護高齢者調査		ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯調査		若年調査	
	人	%	人	%	人	%	人	%
南部	501	13.1	363	14.9	101	12.2	95	17.9
西部	650	17.0	448	18.4	169	20.4	135	25.5
中部	572	15.0	386	15.8	149	18.0	70	13.2
東部	1,003	26.3	678	27.8	196	23.7	149	28.1
北部	769	20.2	526	21.6	165	20.0	74	14.0
無回答	320	8.4	35	1.4	47	5.7	7	1.3
合計	3,815	100.0	2,436	100.0	827	100.0	530	100.0

5. 表章上の留意点

◇構成割合は四捨五入をしているため、その合計が100（%）にならない場合がある。

◇集計結果の「n=」の値は、当該設問の回答数を表す。

◇「ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯調査」は住民基本台帳からひとり暮らし及び高齢者のみ世帯を抽出したため、実態として家族と同居している人が含まれる。

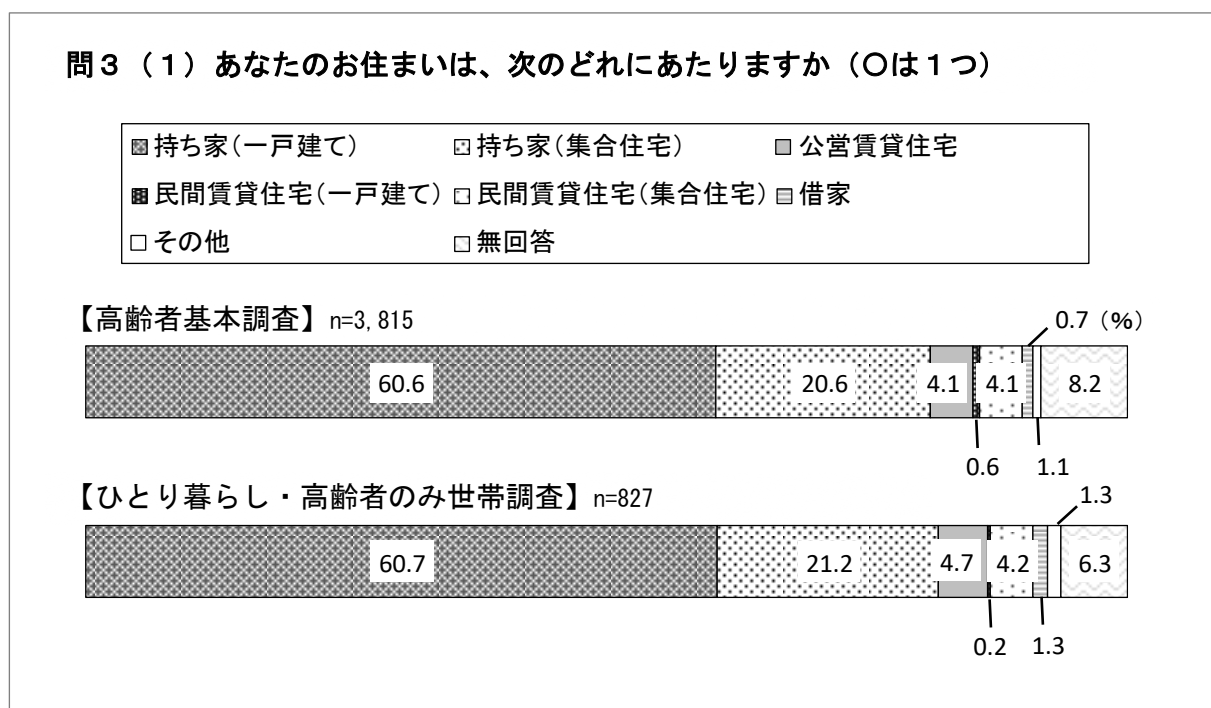
## Ⅱ 調査結果の総括

本調査で得られた結果をもとに、地域包括ケアシステムの5つの要素である「住まい」「予防」「生活支援」「介護」「医療」の視点から、改めて本市における実態を把握するとともに、今後の課題と方向性の整理を行った。

### 1. 住まい

#### ○ 住まい方の実態に即した、支援の受け皿づくり

高齢者基本調査、一人暮らし・高齢者のみ世帯調査とも、「持ち家（一戸建て）」が6割、「持ち家（集合住宅）」が2割の構成となっており、合わせて8割が持ち家居住である。今後は集合住宅居住者の高齢化が進むと予想され、買い物、住民同士の交流、など日常生活上の支援など、きめ細やかな実態の把握とともに、地域コミュニティやネットワークの維持などといったしくみづくりが、地域から求められると思われる（高齢者基本調査、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査・問3（1））。

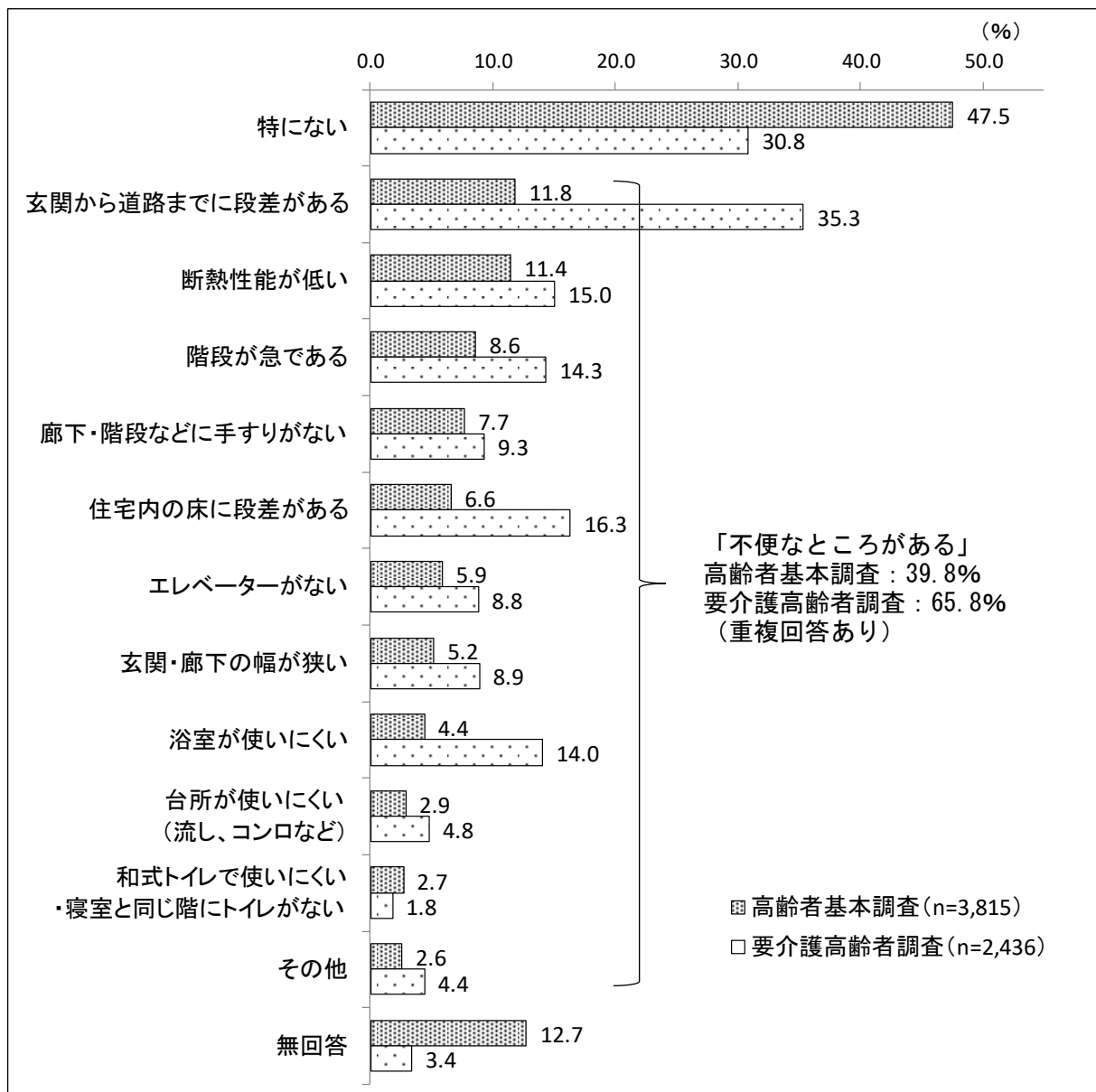


○ バリアフリーは、「玄関を出たところ」も含めて

高齢者基本調査では、約4割が現在の住まいに何らかの不便を感じており、「玄関から道路までに段差がある」「断熱性能が低い」が1割を超えている。また、「階段が急である」「廊下・階段などに手すりがない」「住宅内の床に段差がある」「エレベーターがない」といった、高低差や垂直移動にともなう不便さがあげられており、住居内にとどまらず、玄関を出て外に出るまでのバリアフリーが重要であると考えられる（高齢者基本調査・問3（2））。

要介護高齢者調査では、現在の住まいに約7割が不便を感じ、特に「玄関から道路までに段差がある」（35.3%）、「住宅内の床に段差がある」（16.3%）に回答が集中していることから、住居回りのバリアフリーに注目した取り組みが今後重要となると思われる（要介護高齢者調査・問3（4））。

【高齢者基本調査】・問3（2）、【要介護高齢者調査】問3（4）あなたのお住まいの中で、不便なところがありますか（○は主なもの3つまで）



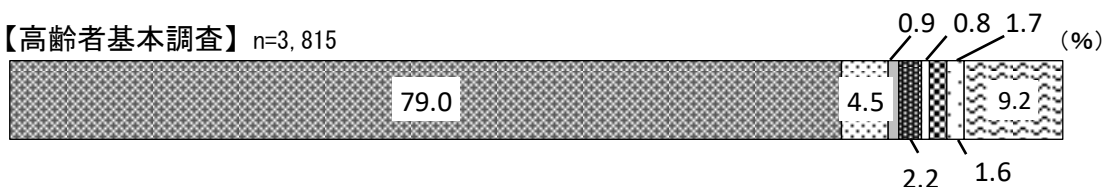
## ○ 住み続けられる環境づくり

高齢者基本調査、要介護高齢者調査では、8割前後が「可能な限り今の住まいで生活したい」としており、住まいの不便さを感じつつもお今のところでの生活を送ることを希望している。若年調査においても、「可能な限り今の住まいで生活したい」、「今の住まいを改修して住み続けたい」合わせて79.8%が現在の住まいでの生活継続を望んでおり、高齢期に向けた住環境整備への関心が高まることが想定される（高齢者基本調査・問3（3）、要介護高齢者調査・問3（5）、若年調査・問3（3））。

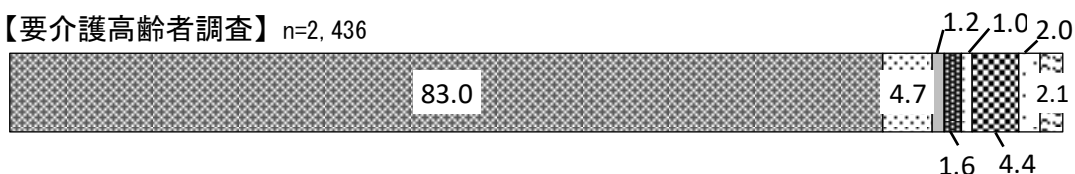
問3（3） / （5） あなたは、今後もずっと今のお住まいで生活していきたいと思いませんか（○は1つ）

- 可能な限り今の住まいで生活したい
- 今の住まいを改修して住み続けたい
- バリアフリー化された住宅に転居したい
- 今より家賃の安いところに転居したい
- 親族の近く（同居を含む）に転居したい
- 医療や介護が受けられる有料老人ホーム等に転居したい
- その他
- 無回答

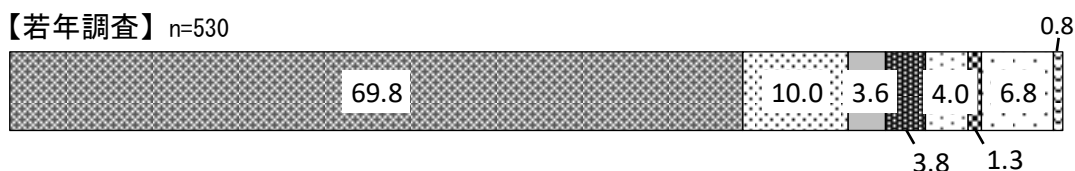
【高齢者基本調査】 n=3,815



【要介護高齢者調査】 n=2,436



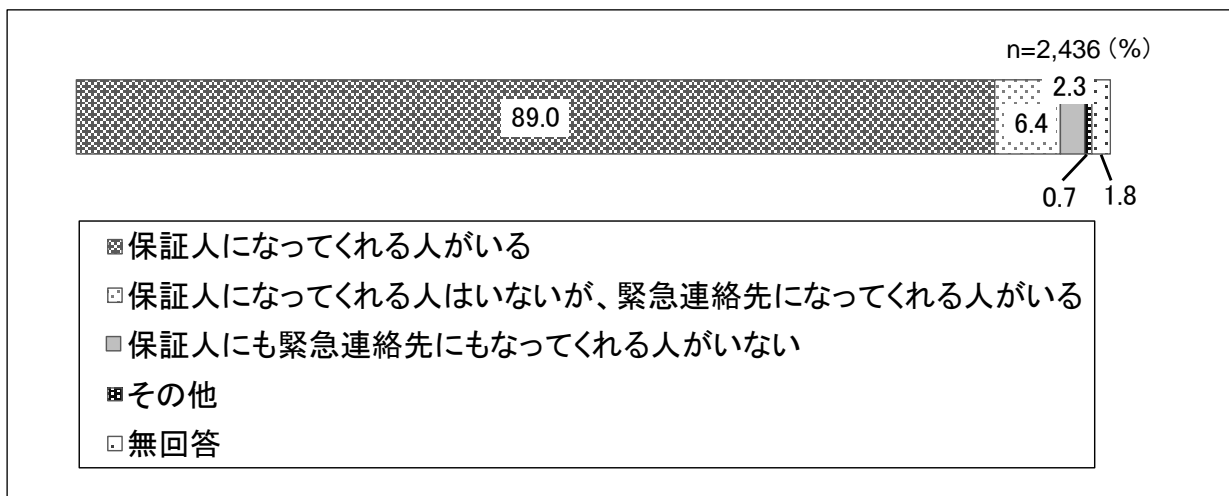
【若年調査】 n=530



○ 保証人・緊急連絡先の有無

要介護高齢者のうち、入院、施設入所、賃貸住宅への転居等が必要になったとき、「保証人になってくれる人がいない」とする割合が 8.7%（「保証人になってくれる人はいないが、緊急連絡先になってくれる人がいる」（6.4%）、「保証人にも緊急連絡先にもなってくれる人がいない」（2.3%））となっており、今後ひとり暮らしなど身寄りのない要介護高齢者における住まいの選択を支援するしくみの充実が必要である（要介護高齢者調査・問3（3））。

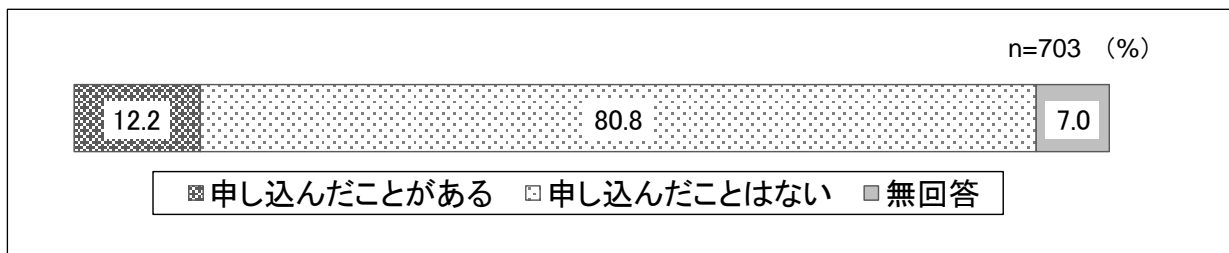
**【要介護高齢者調査】・問3（3）あなたが入院、施設入所、賃貸住宅への転居等が必要になったとき、保証人や緊急連絡先になってくれる人はいますか（○は1つ）**



○ 施設入所申込者への支援

要介護高齢者では、施設への入所申請は1割が行っており、可能な限り重度化を防ぐとともに、家族等介護者に係る負担を軽減できるよう、在宅生活支援を図ることが重要である（要介護高齢者調査・問3（6））。

**【要介護高齢者調査】・【「要介護3」～「要介護5」の認定を受けている方におうかがいします】問3（6）あなたは、特別養護老人ホームへの入居申込（待機含む）を行ったことがありますか（○は1つ）**





## 2. 予防

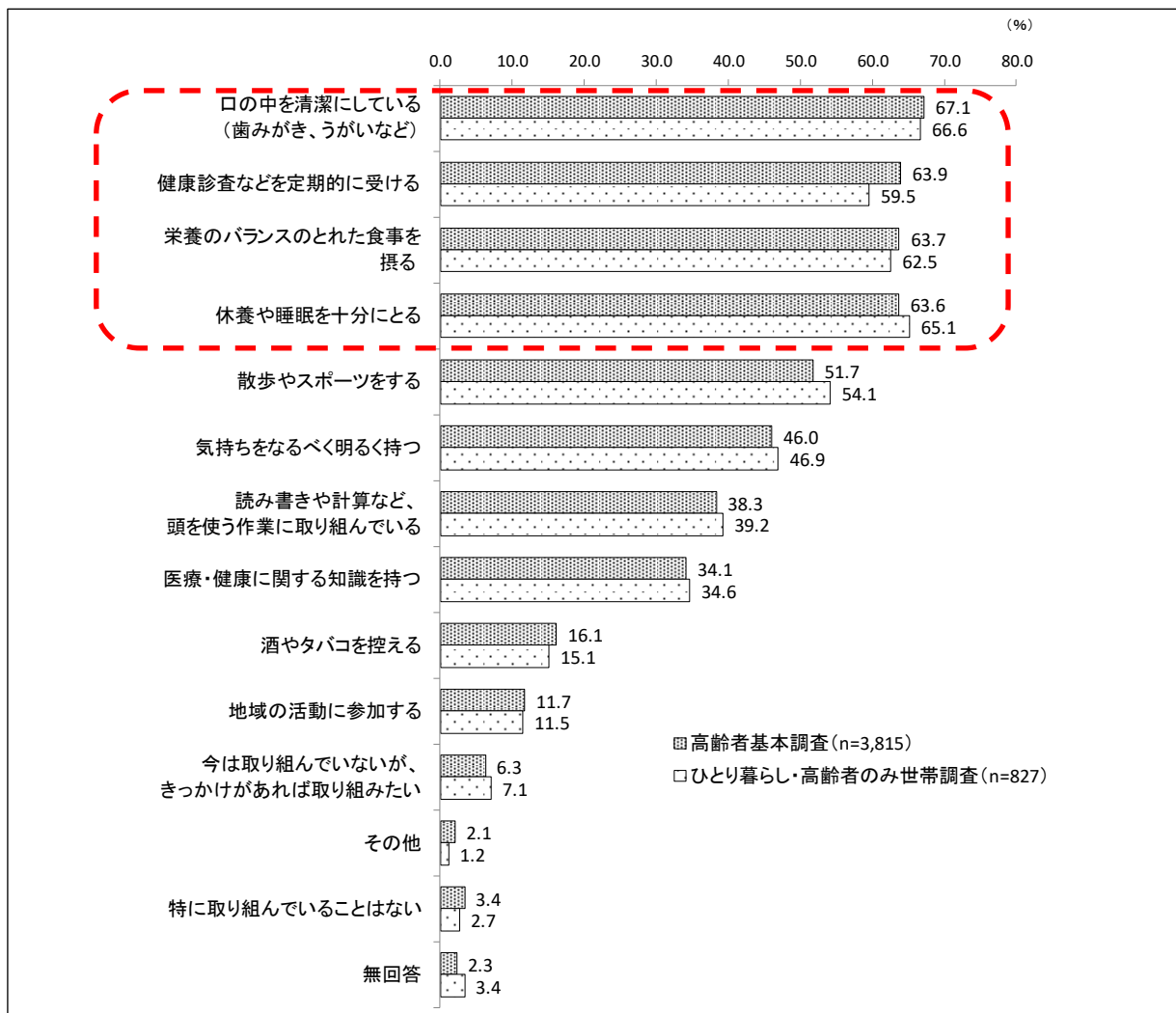
### ○ 早期の介護予防・健康づくりへの意識啓発

高齢者基本調査、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査では、健康や介護予防のために取り組んでいることとして「口の中を清潔にしている（歯みがき、うがいなど）」が最も多く、「健康診査などを定期的に受ける」、「栄養のバランスのとれた食事を摂る」、「休養や睡眠を十分にとる」の4項目は6割前後と高くなっている（高齢者基本調査、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査・問9（12））。

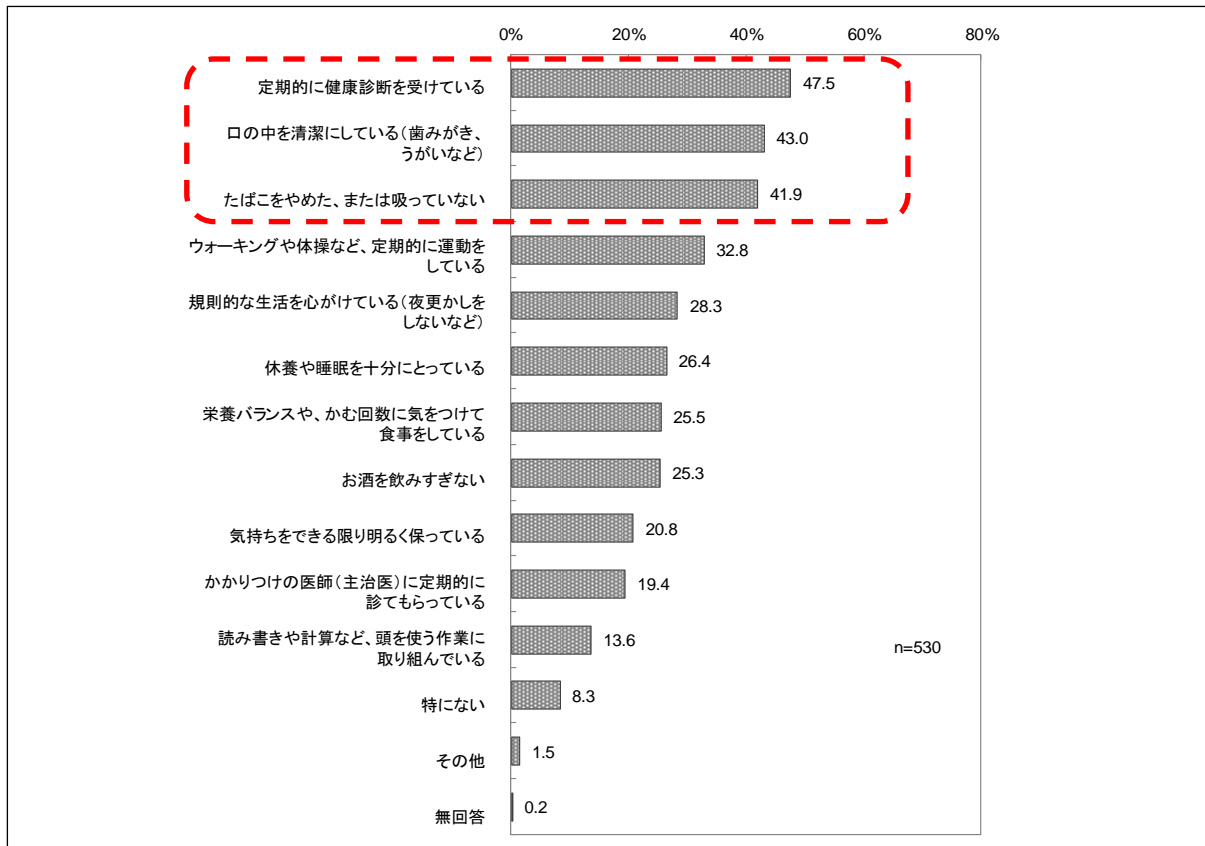
若年調査では、「定期的に健康診断を受けている」が約5割のほか、「口の中を清潔にしている（歯みがき、うがいなど）」、「たばこをやめた、または吸っていない」が4割と続いている。

なお、「散歩やスポーツ」は高齢者基本調査、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査で5割を超えているが、若年調査では「ウォーキングや体操など、定期的に運動をしている」は3割にとどまっており、今後より一層自発的に健康づくりに取り組む必要があると思われる（若年調査・問4（5））。

### 【高齢者基本調査】【ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査】・問9（12）あなたは、ふだんから健康や介護予防のために取り組んでいることはありますか（○はいくつでも）



【若年調査】・問4（5）あなたは、ふだんから健康や介護予防のために気をつけていることはありますか（〇はいくつでも）



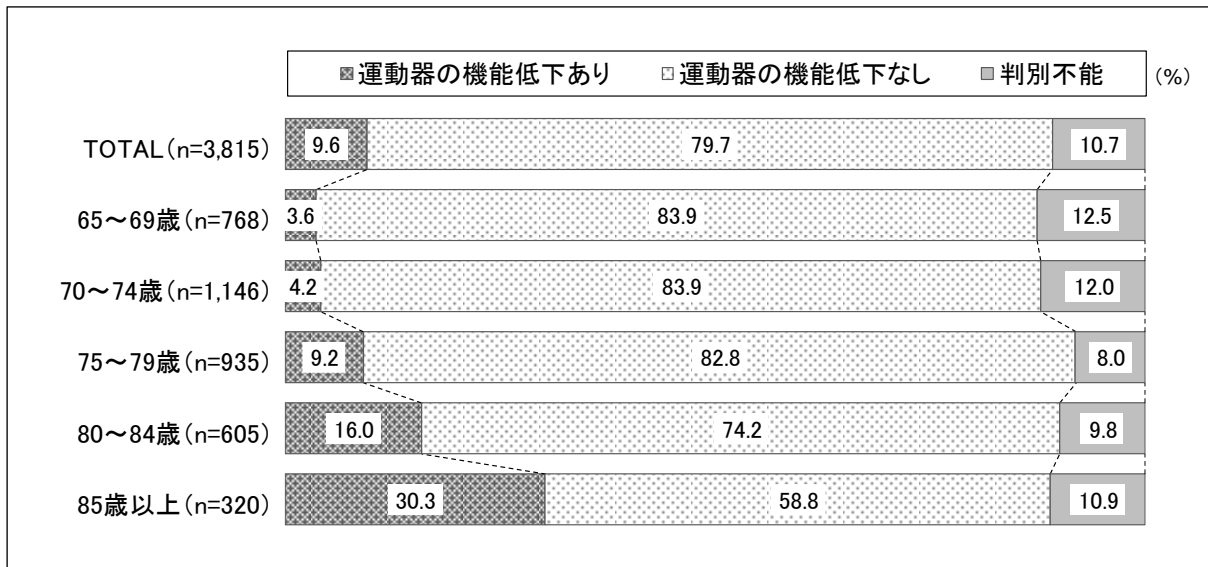
○ 各種リスクへの備え

運動器の機能低下、転倒リスク、閉じこもり、低栄養状態、口腔機能の低下、認知機能の低下、IADL（手段的日常生活動作）、うつ傾向の各種リスクについて、介護予防を進めるうえで重要な指標である。

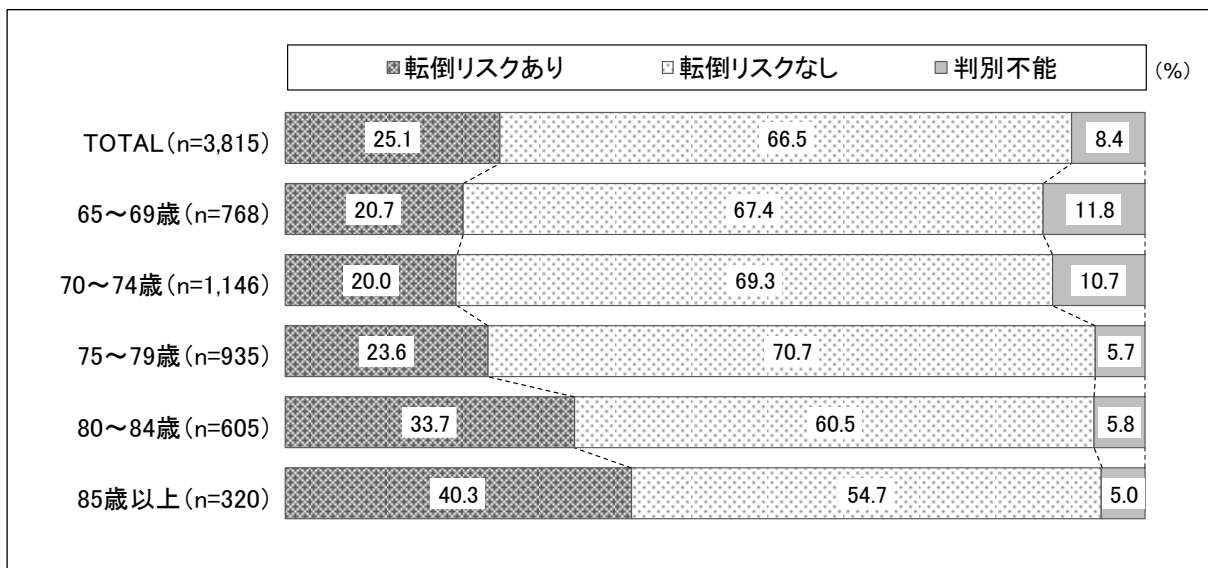
高齢者基本調査によれば、運動器の機能低下（9.6%）、転倒リスク（25.1%）、閉じこもり（10.0%）、低栄養状態（0.9%）、IADL（手段的日常生活動作）（4点以下7.3%）という結果が得られた。このうち、運動器、転倒リスク、閉じこもり、低栄養状態、IADL（手段的日常生活動作）については、年齢が高いほどリスクの割合が大きくなる傾向が顕著であった（65～69歳と85歳以上との差が約2倍以上）（高齢者基本調査・運動器：問4（1）～（5）、転倒リスク：問4（4）、閉じこもり：問4（6）、低栄養状態：問5（1）（2）（3）、IADL：問6（4）～（8））。

健康や介護予防のために積極的に取り組んでいるとする回答が多い一方で、介護予防リスクを有する高齢者が、積極的な運動・外出と身近な支援、専門的なアドバイスなどをなお必要としていることがうかがわれ、特に80歳代以降の高齢者への支援が重要と言える。さらには、前期高齢者の段階から、健康づくり・介護予防に取り組み、各種リスクを先送りできるようにすることが必要である。

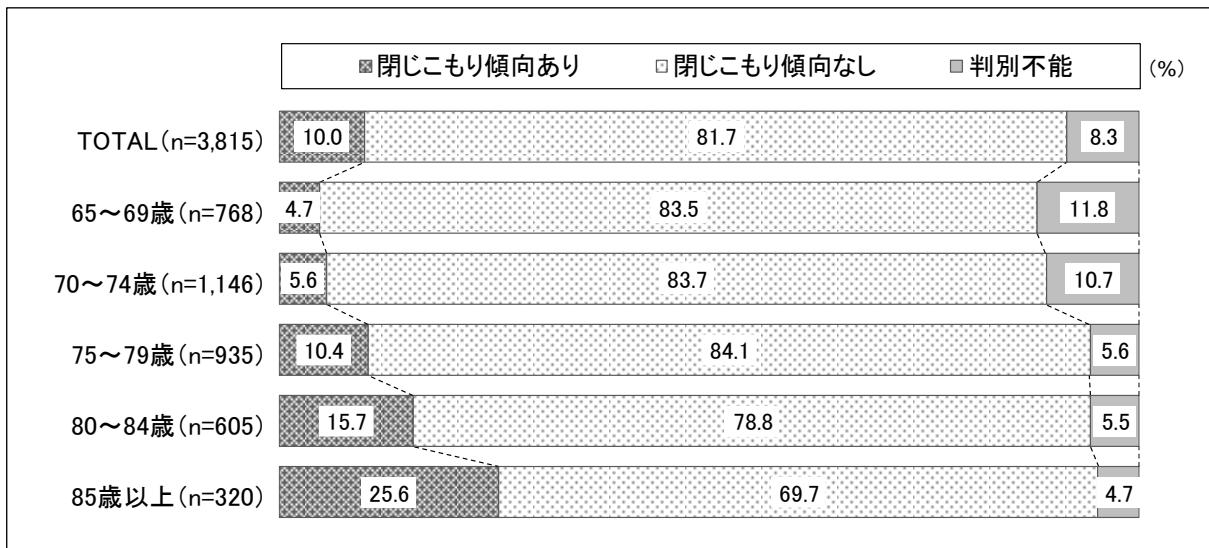
【高齢者基本調査】運動器の機能低下・問4（1）～（5）



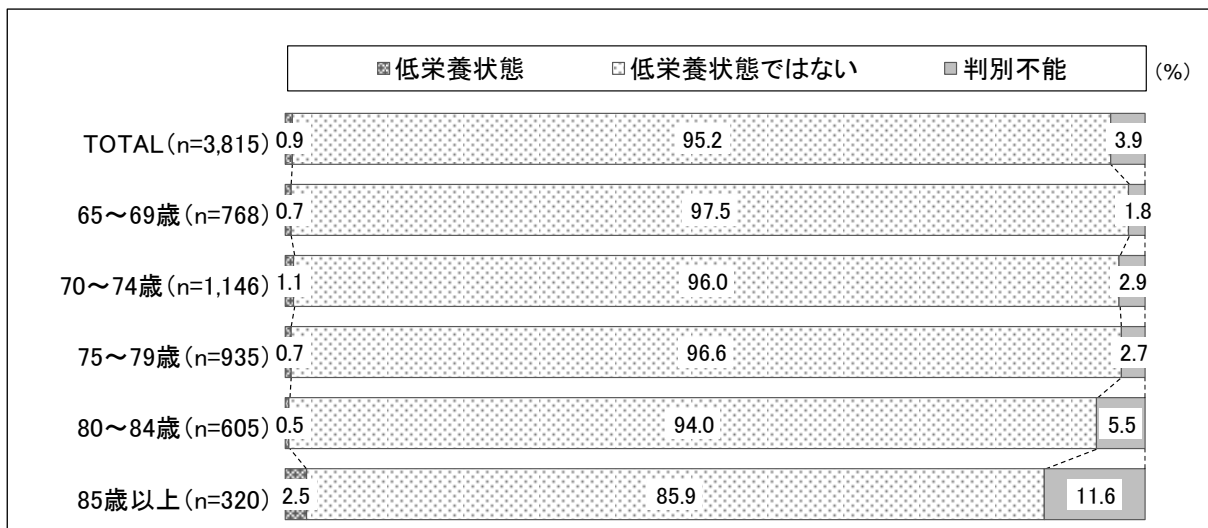
【高齢者基本調査】転倒リスク・問4（4）



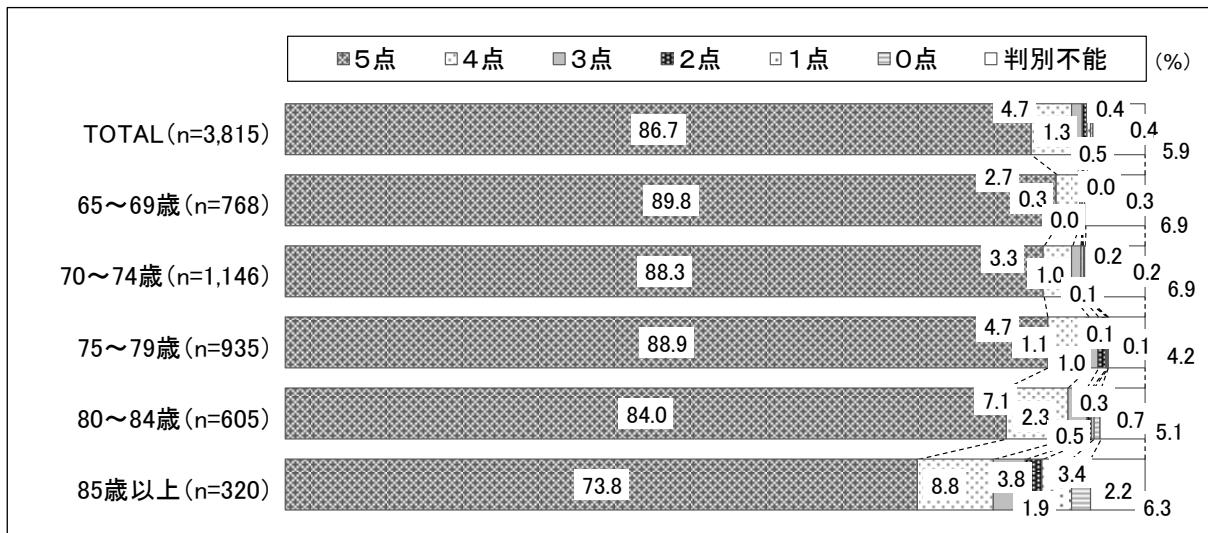
【高齢者基本調査】閉じこもり・問4（6）



【高齢者基本調査】低栄養状態・問5（1）（2）（3）



【高齢者基本調査】IADL（手段的日常生活動作）・問6（4）～（8）



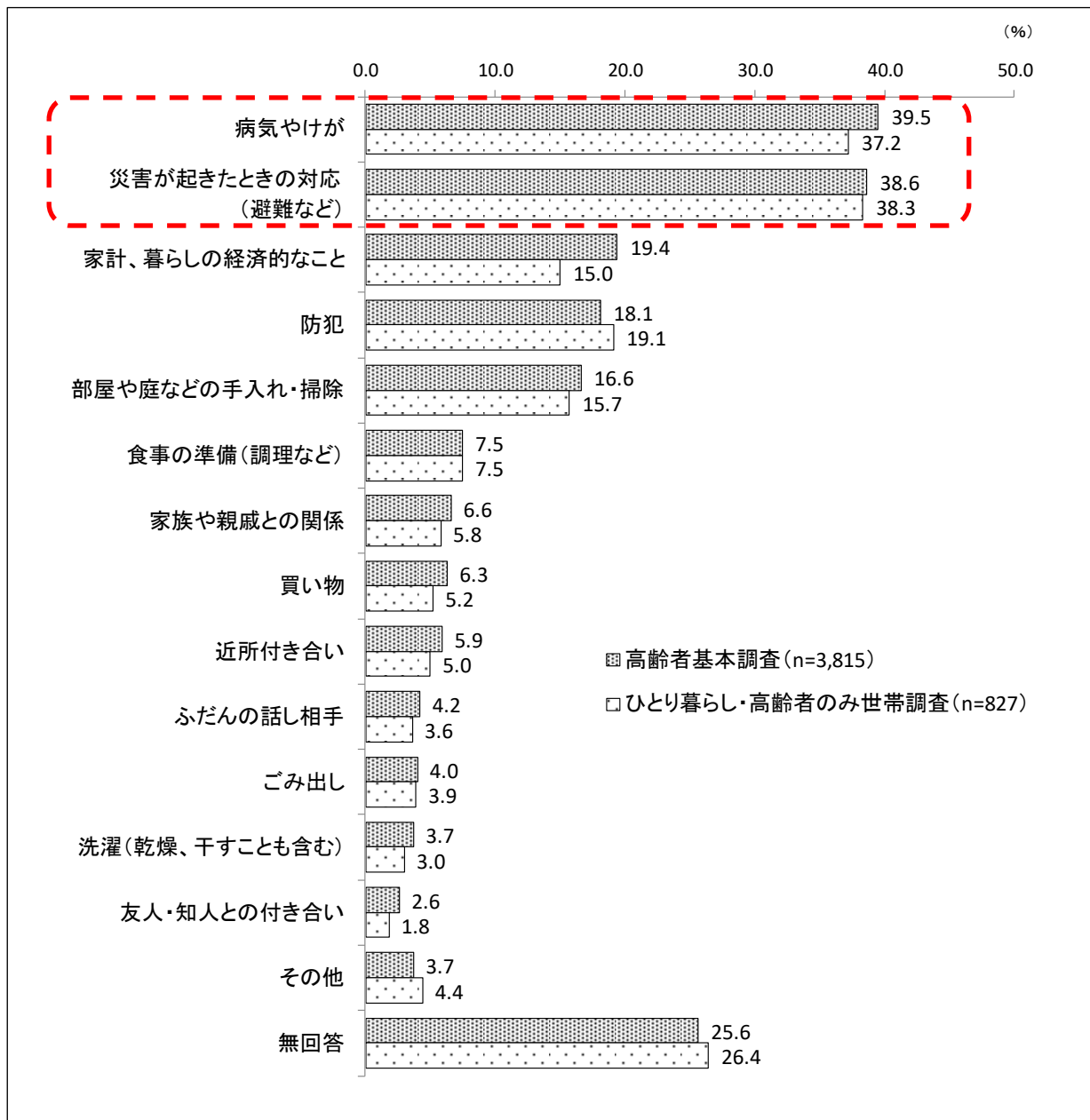
### 3. 生活支援

#### ○ 医療、防災への備えの重視

高齢者基本調査、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査とも「ふだんの生活で気になったり、困ったりしていること」については、「病気やけが」、「災害が起きたときの対応（避難など）」が多くあげられており、医療、防災への備えについては、高齢者やその家族だけで十分な備えをすることが困難であることが想定される（高齢者基本調査、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査・問6（19））。

#### 【高齢者基本調査】、【ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査】

・問6（19）あなたがふだんの生活で気になったり、困ったりしていることはありますか（○はいくつでも）

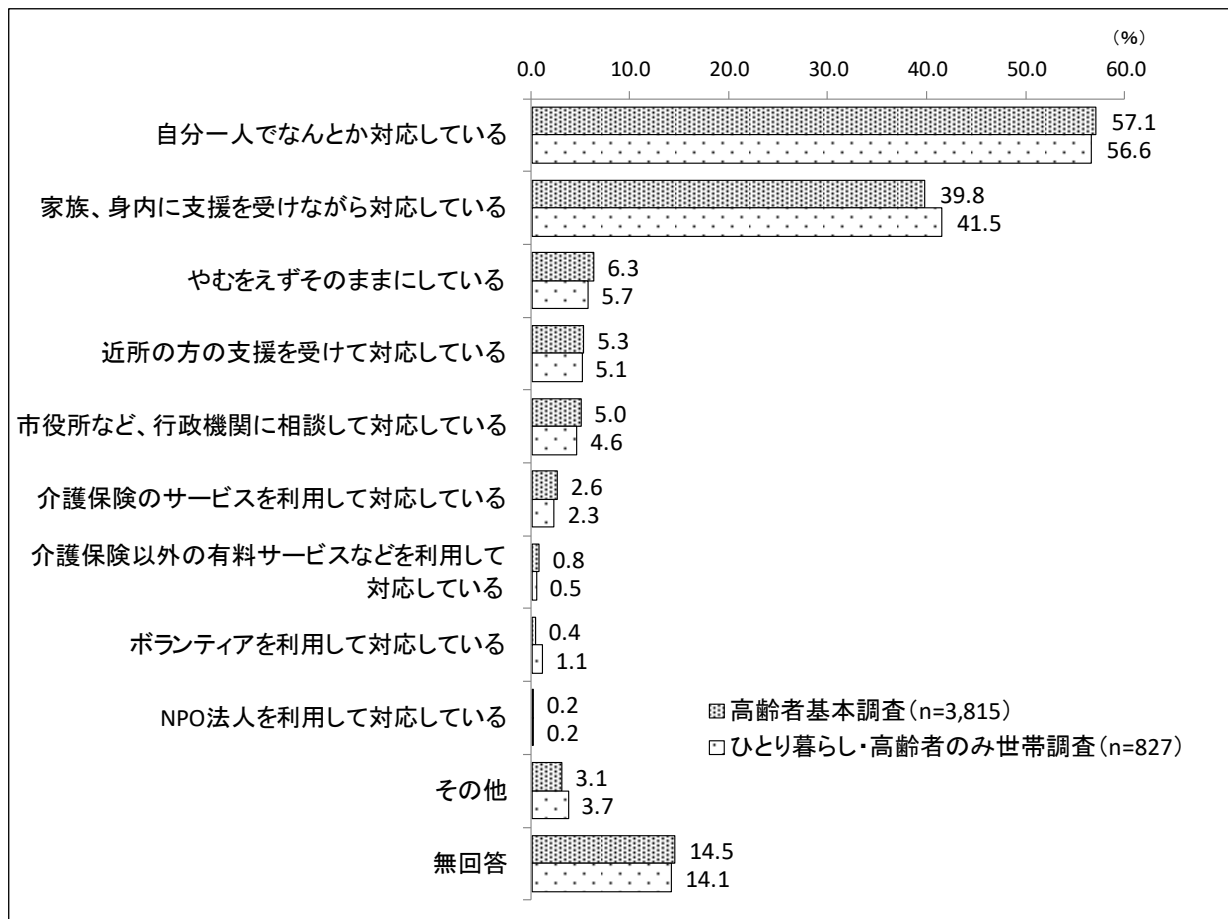


## ○ 現状での対応

現状では、高齢者基本調査、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査とも様々な生活上の課題に対して、「自分一人でなんとか対応している」、「家族、身内に支援を受けながら対応している」がそれぞれ5割、約4割と回答しているが、医療などの専門的対応や緊急時など、対応範囲に限界が想定されることから、日常的に高齢者自らが対応可能なものと、対応の困難なものを分かりやすく整理し、専門的かつ客観的なアドバイスを得られる仕組みが今後重要になるとと思われる（高齢者基本調査、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査・問6（20））。

### 【高齢者基本調査】、【ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査】

問6（20）あなたが気になったり、困ったりしていることに、どのように対応されていますか（〇はいくつでも）



## ○ 地域での関わり

地域における活動への参加意向をみると、高齢者基本調査、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査とも、「是非参加したい」、「参加してもよい」、「既に参加している」との肯定的な回答が合わせて半数を超えている。

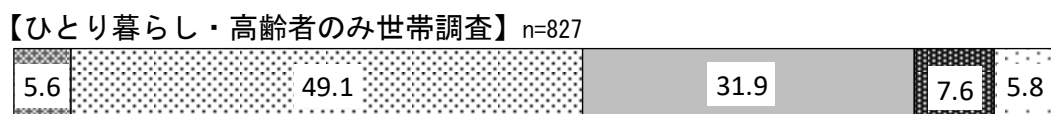
また、活動の企画・運営（お世話役）としての参加意向は、高齢者基本調査、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査において「是非参加したい」、「参加してもよい」、「既に参加している」とを合わせて、4割前後となっている。

さらに、地域でボランティアとして家事援助など助け合い活動に参加したいとする意向は、高齢者基本調査、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査において「是非参加したい」、「参加してもよい」、「既に参加している」とを合わせて、3割を超えている。

今後、地域での活動を基盤として、様々な活動情報や市民の参加意向などのニーズを共有化しながら、生活支援を進めることが有効かつ効率的であると思われる（高齢者基本調査、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査・問7（2）～（4））。

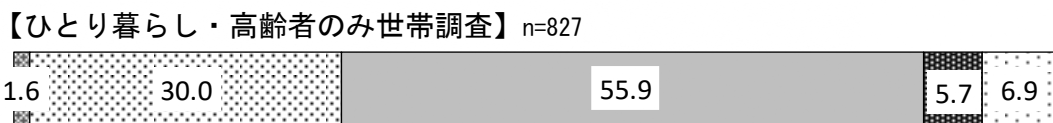
問7（2）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか（〇は1つ）

■ 是非参加したい □ 参加してもよい ■ 参加したくない ■ 既に参加している □ 無回答



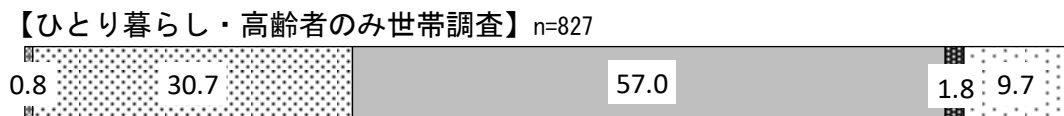
問7(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（〇は1つ）

是非参加したい  参加してもよい  参加したくない  既に参加している  無回答



問7(4) 地域住民の有志によって、家事援助などのたすけあい活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動にボランティアとして参加してみたいですか（〇は1つ）

是非参加したい  参加してもよい  参加したくない  既に参加している  無回答





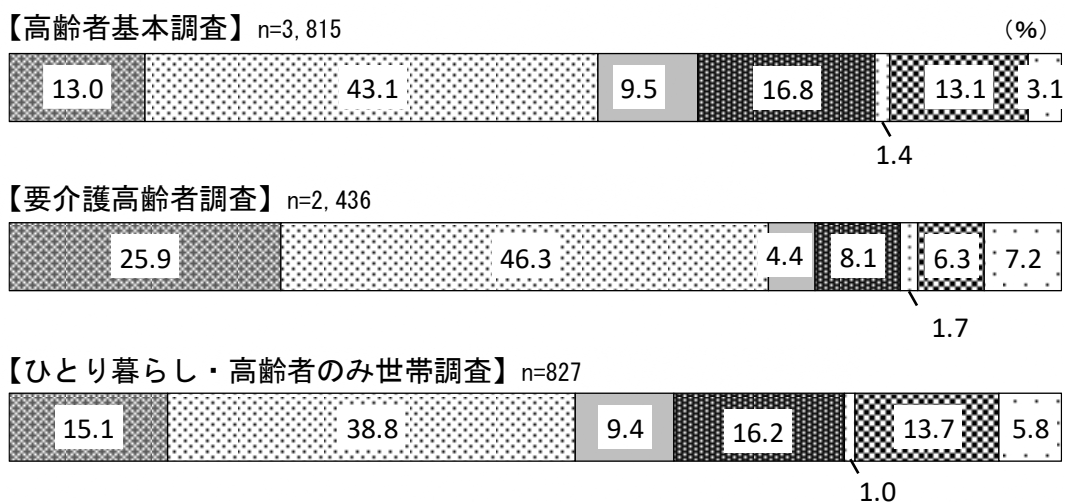
## 4. 介護

### ○ サービス利用と在宅生活の維持

今後の生活については、要介護高齢者調査では、「介護保険のサービスを利用しながら、自宅で生活したい」が46.3%と、高齢者基本調査（43.1%）、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査（38.8%）よりも高くなっている（高齢者基本調査・問11（1）、要介護高齢者調査・問7（1）、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査・問11（1））。住み慣れた自宅において、要介護状態であっても住み続けられる環境づくりが重要となっている。

問11（1）あなたは、ご自身が介護を必要とする状態になったとき、どのような介護を受けたいと思いますか（要介護：問7（1）あなたは、今後どのような生活を続けたいと思いますか（○は1つ）

- 家族の介護を受けながら、自宅で生活したい
- 介護保険のサービスを利用しながら、自宅で生活したい
- 高齢者向け施設などに住み替えて、介護保険サービスを利用したい
- 介護保険で利用できる特別養護老人ホームなどに入所したい
- その他
- わからない
- 無回答



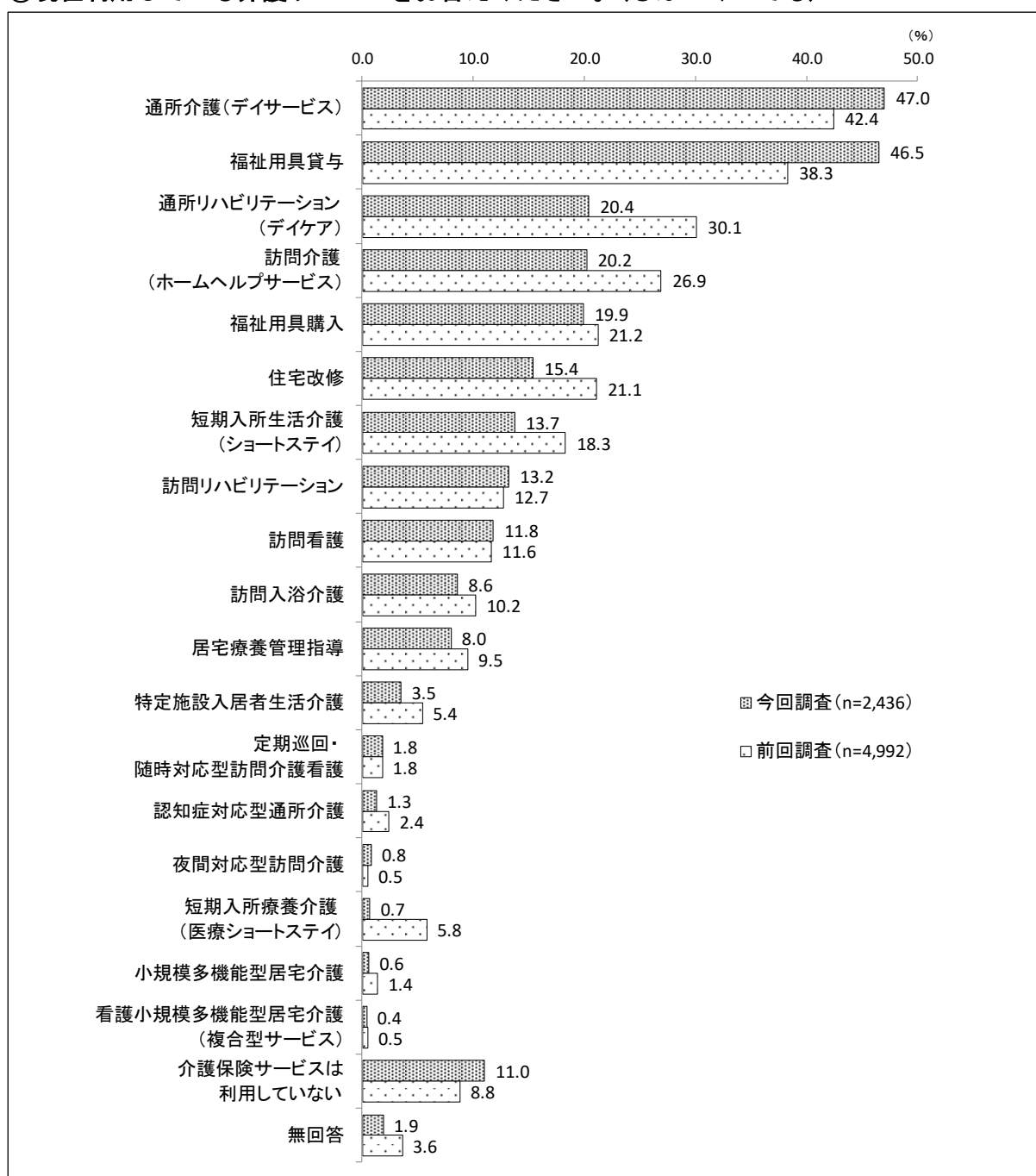
## ○ サービス利用状況

現状のサービス利用では、「通所介護」(47.0%)、「福祉用具貸与」(46.5%) がともに4割台と集中しており、かつ3年前に行った前回の調査(以下、「前回」と言う。)よりも増加している(前回「通所介護」42.4%、「福祉用具貸与」38.3%)。

また、「通所リハビリテーション」(20.4%)、「訪問介護」(20.2%) は前回より減少しており、(前回「通所リハビリテーション」30.1%、「訪問介護」26.9%)、今後介護サービス供給体制については、需要動向をみながら計画的に推進する必要がある(要介護高齢者調査・問5(3))。

### 【要介護高齢者調査】・問5(3) 現在の介護保険サービスの利用状況をおうかがいします。

#### ①現在利用している介護サービスをお答えください。(〇はいくつでも)

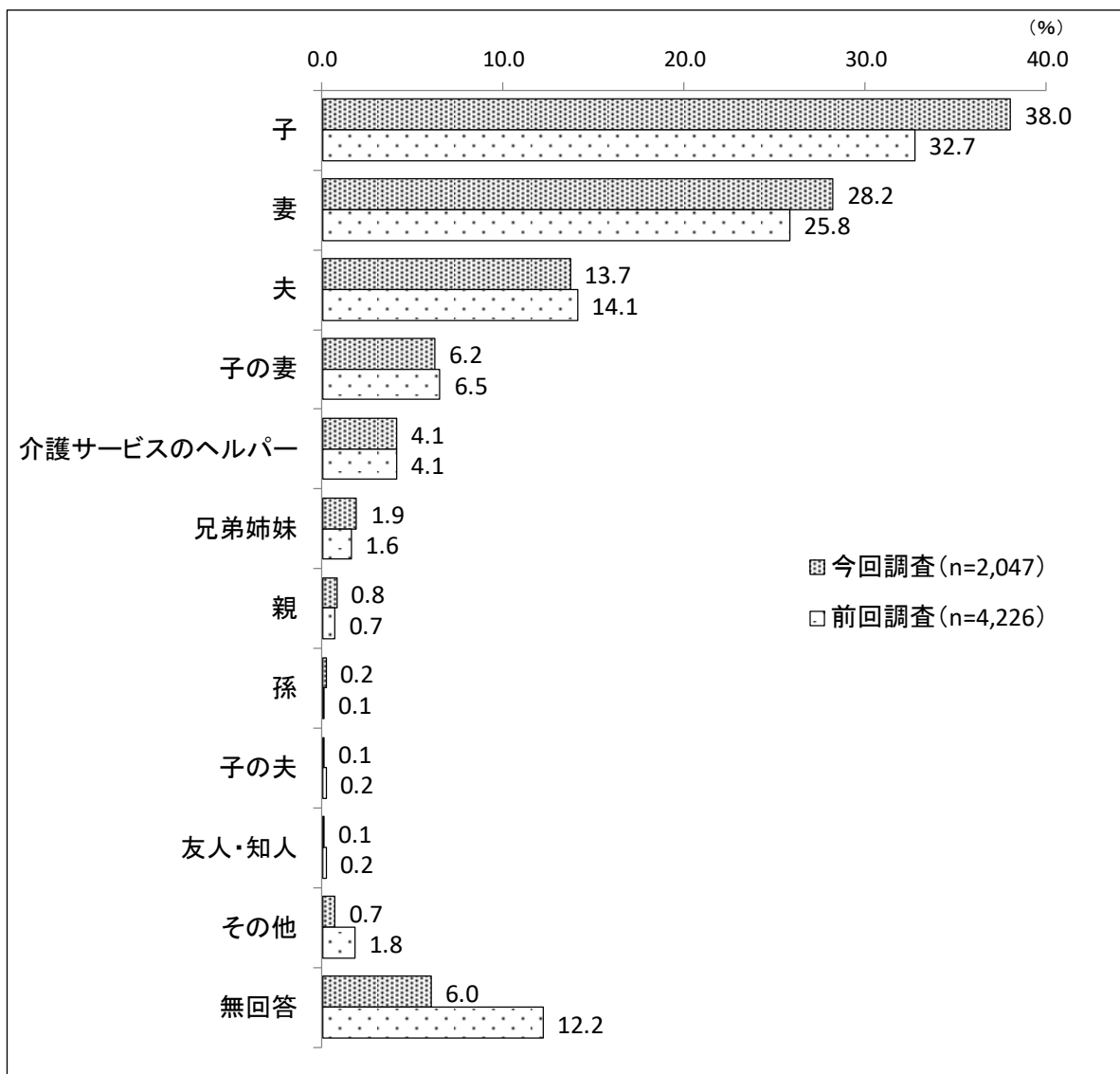


○ 介護の担い手

主な介護者のうち、子の占める割合が前回より増えており（38.0% 前回 32.7%）、家族内の介護の担い手の変化がうかがえる（要介護高齢者調査・問6（3）③）。

【要介護高齢者調査】・問6（3）主に介護をしている方（お一人）の（主な介護者の）あて名ご本人との関係（続柄等）をお答えください（それぞれについて○は1つ）

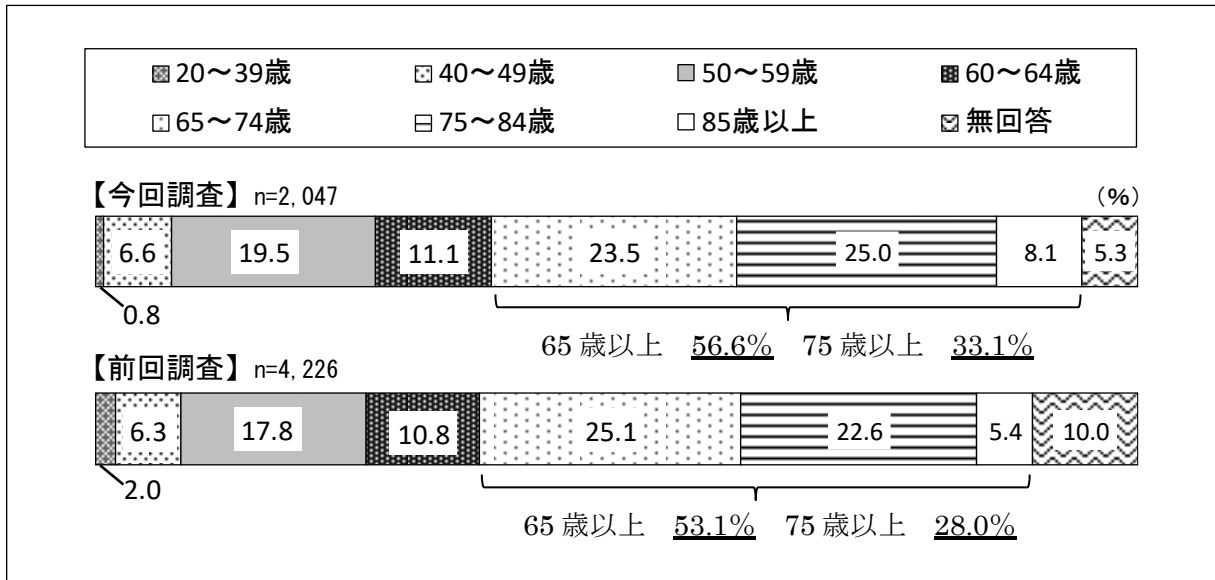
③（主な介護者の）続柄



一方、介護者の年齢構成では、「65歳以上」が半数（56.6% 前回 53.1%）、「75歳以上」では、3割（33.1% 前回 28.0%）と介護者の高齢化も進んでいると思われる（要介護高齢者調査・問6（3）②）。

【要介護高齢者調査】・問6（3）主に介護をしている方（お一人）の（主な介護者の）あて名ご本人との関係（続柄等）をお答えください（それぞれについて○は1つ）

②（主な介護者の）年齢

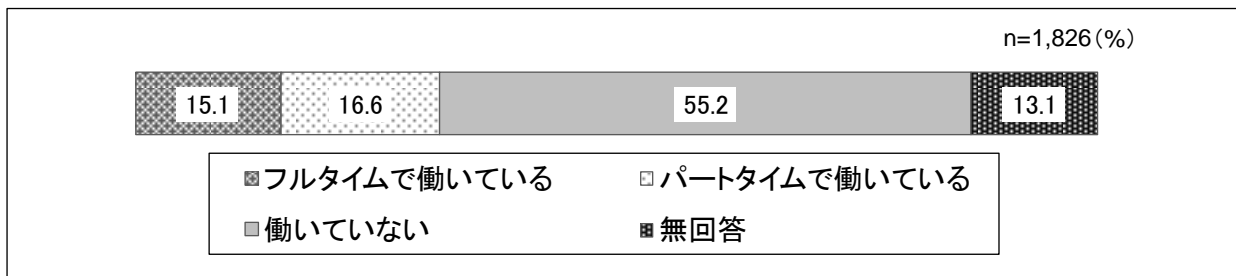


## ○ 介護者の就労

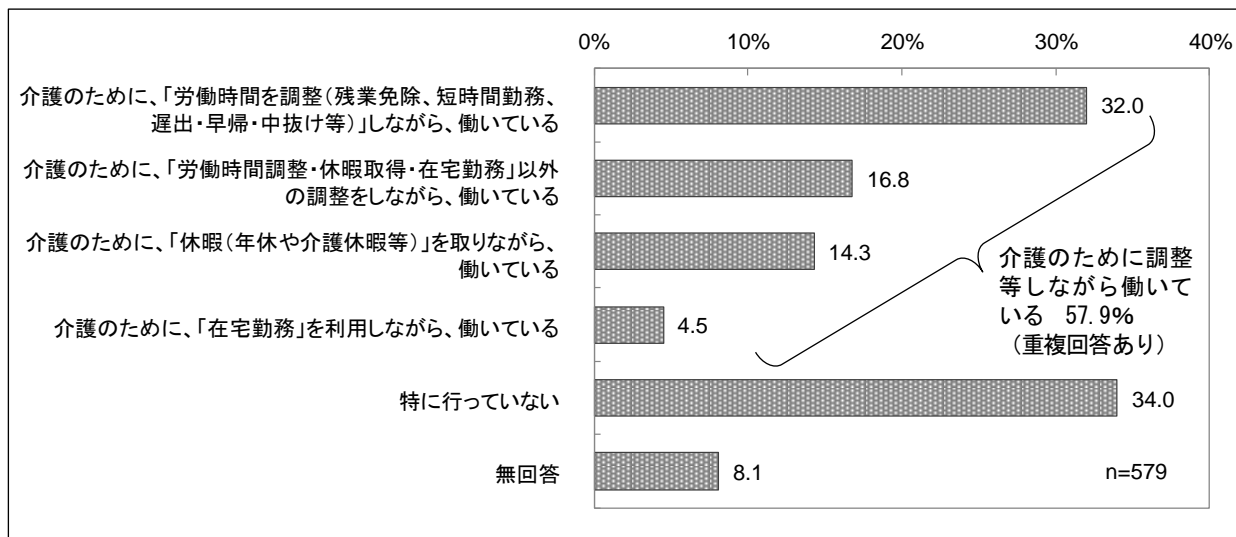
家族介護者（「1. 妻」～「8. 兄弟姉妹」のいずれかに回答）のうち、31.7%は就労（フルタイム 15.1% パートタイム 16.6%）しており（要介護高齢者調査・問6（9））、うち57.9%は、介護のために、労働時間や休暇取得などの調整をしながら就労している（要介護高齢者調査・問6（9）①）。

介護による離職を防ぎつつ、要介護者本人の在宅生活を維持できるよう、事業所側においても各種制度の充実や多様な働き方への理解など、介護者の働き方を支援する環境づくりをより一層進める必要がある。

**【要介護高齢者調査】・【(4)～(9)は、(3)③で「1. 妻」～「8. 兄弟姉妹」のいずれかに○をつけられた方がお答えください。】(9) (主な介護者の方は) 現在、仕事をしていますか。仕事をしている場合、勤務形態は次のどれですか (○は1つ)**



**【要介護高齢者調査】・【(9)において「1. フルタイムで働いている」、「2. パートタイムで働いている」のいずれかに○をつけられた方におうかがいします。】①介護をするにあたって、何か働き方の調整をしていますか (○はいくつでも)**



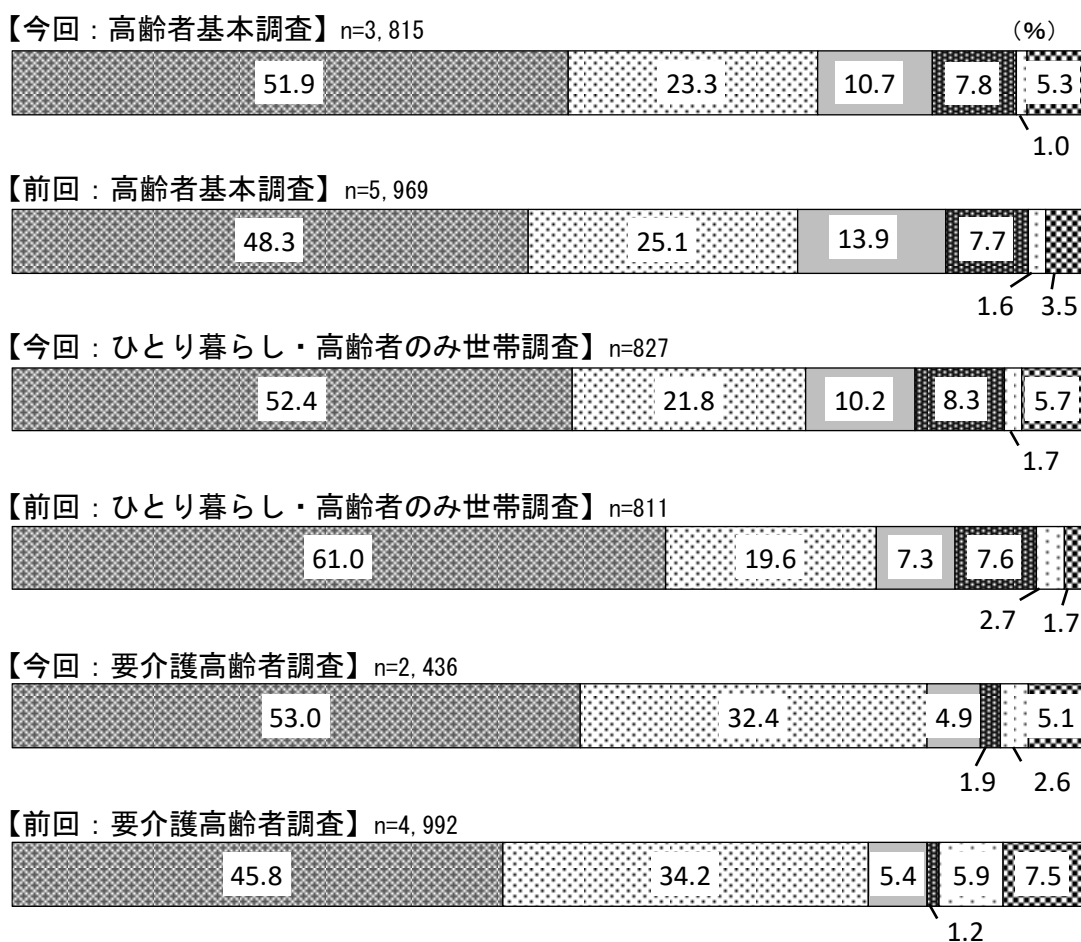
## 5. 医療

### ○ 身近な存在であるかかりつけ医

高齢者基本調査において、『かかりつけ医』と言えるお医者さんを近所に持っている」割合は半数（51.9%）と前回割合（48.3%）よりやや増加している（なお、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査では、『かかりつけ医』と言えるお医者さんを近所に持っている」割合は、今回 52.4%、前回 61.0%と前回より減少）（高齢者基本調査、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査・問9（8））。また、要介護高齢者のうち、『かかりつけ医』と言えるお医者さんを近所に持っている」割合は半数を超え（53.0%）、前回割合（45.8%）より増加している（要介護高齢者調査・問4（6））。

#### 問9（8）/問4（6） あなたの健康について、いろいろと相談できる「かかりつけ医」をお持ちですか（○は1つ）

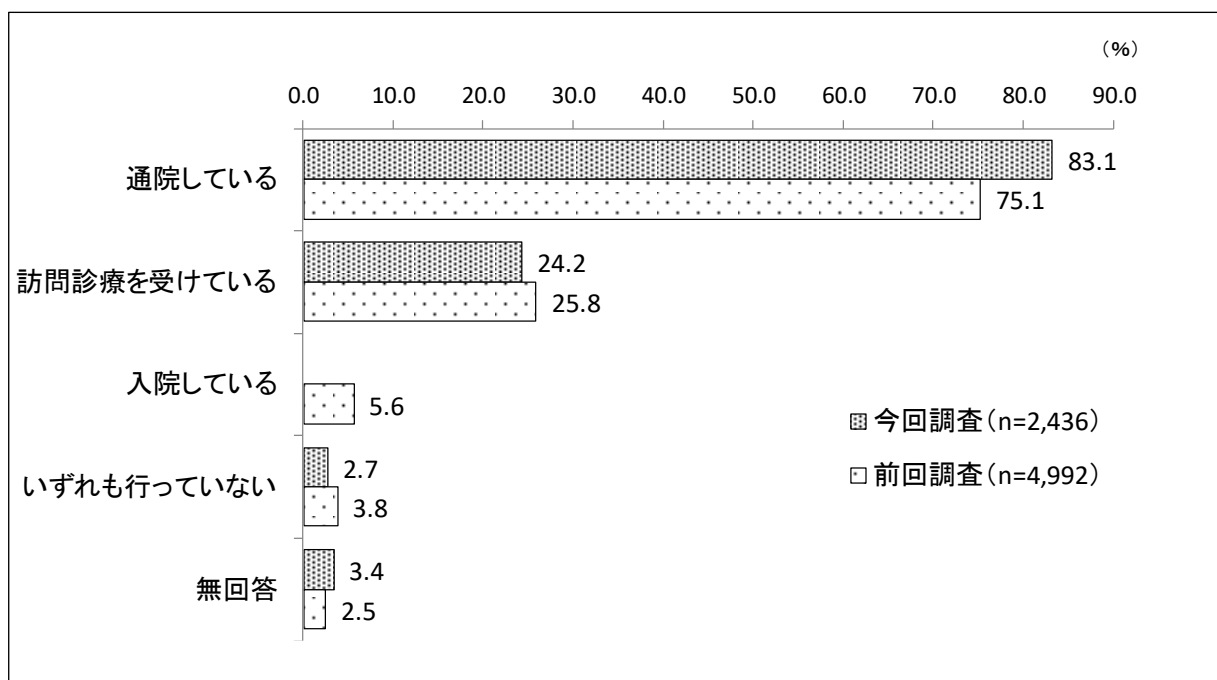
- 「かかりつけ医」と言えるお医者さんを近所に持っている
- ▨ 総合病院に「かかりつけ医」のようにみてもらっている
- 病院・医院を特定せず、その時々のお医者さんにみてもらっている
- 滅多に病気にならないので、よくわからない
- その他
- 無回答



## ○ 訪問診療の受診状況

要介護高齢者調査では、訪問診療を受けている割合が24.2%（前回25.8%）となっており、高齢化、中重度の要介護者の在宅生活が増える中で、在宅生活を支える担い手として、医療の位置づけがますます大きくなると想定される（要介護高齢者調査・問4（5））。

**【要介護高齢者調査】・問4（5）あなたは現在、通院や訪問診療などで診療を受けていますか**  
 （○はいくつでも）



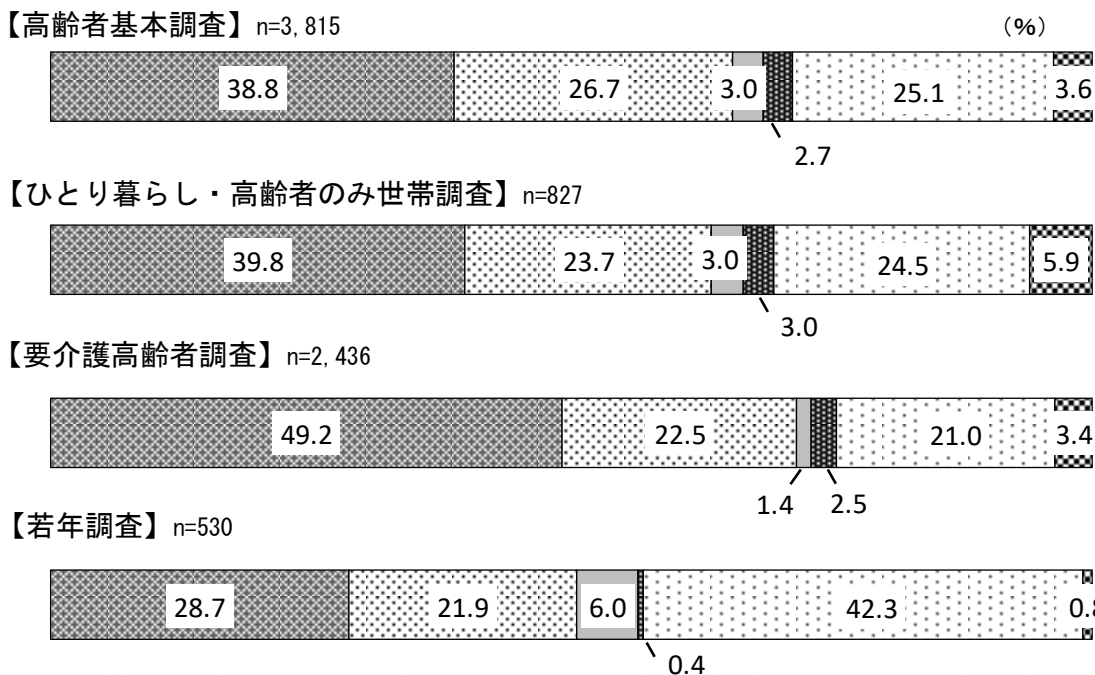
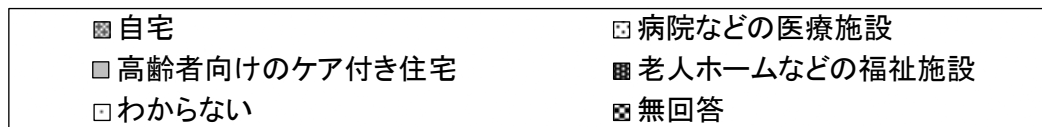
## ○ 最期の居場所

病気などで最期を迎える場所については、高齢者基本調査、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査では、「自宅」が約4割（高齢者基本調査38.8%、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査39.8%）、若年調査（28.7%）に対し、要介護高齢者調査では約5割（49.2%）とやや高く、要介護5では61.9%となっている（高齢者基本調査、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯調査・問9（13）、要介護高齢者調査・問4（10）、若年調査・問4（10））。

このように、要介護者が可能な限り、本人の意向を尊重し、最期まで自宅で住み続けられるよう、在宅療養環境のさらなる充実が求められる。

（次ページ図参照）

問9(13)/問4(10) 病気などで最期を迎えたとしたら、あなたはどこで最期を迎えたいですか(○は1つ)



【要介護高齢者調査】(介護度別)・問4(10) 病気などで最期を迎えたとしたら、あなたはどこで最期を迎えたいですか。(○は1つ)

